

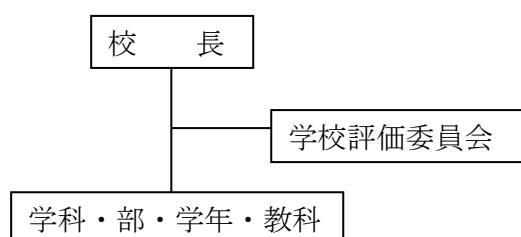
I 自己評価の概要

1 『学校経営・運営ビジョンについて』

「教育目標」と「我等の信条」が本校の『学校経営・運営ビジョン』の根幹となっている。これを実現するために4つの努力目標を設定し、さらに努力目標の実現のための具体的な下位目標を設定している。

前年度の分掌ごとの反省や学校全体として取り組むべき課題をもとに、年度初めに校長により『学校経営・運営ビジョン』が示される。

2 校内組織体制について



各学科・各部・各学年・各教科等の実践を組織横断的に評価するために、校務分掌組織とは別に学校評価委員会が組織されている。

3 自己評価年間計画について

月	学校評価委員会の活動	学校評議員の活動
4月	学校長より「学校経営・運営ビジョン」提示	
5月		
6月	第1回学校評価委員会	
7月		第1回学校評議員会
8月		
9月		
10月		
11月	第2回学校評価委員会 アンケート内容の検討・回収方法など	第2回学校評議員会
12月	アンケートの実施・アンケートの集計 アンケートの分析	
1月	委員による事前分析	第3回学校評議員会
2月	第3回学校評価委員会 学校評価のまとめ 「自己評価実施報告書の作成」	
3月	アンケート結果を反映した学校運営の提言 結果の公表(H P 掲載)	

II アンケートの概要

1 実施時期、実施方法

教員	11月26日配布12月10日〆切	無記名	選択方式
生徒	11月27日配布12月10日〆切	記名	選択方式
保護者	11月27日配布12月10日〆切	記名	選択方式

- ・今年度も昨年度同様アンケートによる評価は1回のみ、11月下旬に実施。
- ・アンケートは生徒、保護者、教員を対象に、それぞれの設問数16、16、15として調査をした。設問1～12はビジョンに示される項目を評価する内容であり、設問13～16はビジョンに関わらない学校全般を評価する内容とした。変更点は、「3 評価基準について」を参照。
- ・保護者は、従来通り記名とした。プライバシーの保護を考慮してH29年度から封筒に入れて回収している。

2 アンケートの回答数

対象	H30年度のアンケート			H29年度のアンケート			H28年度のアンケート		
	対象数	回答数	割合	対象数	回答数	割合	対象数	回答数	割合
生徒	704	701	99.6%	704	690	98.0%	712	703	98.7%
保護者	704	575	81.7%	704	567	80.5%	712	541	75.0%
教職員	75	75	100%	75	73	97.3%	76	70	92.1%

- ・昨年度と今年度の回答割合を比較すると、全教職員よりアンケートの回収を得ることができた。生徒の未回答3名は、長欠生徒であり、ほぼ100%である。保護者は、微増であった。
- ・[来年度に向けて] 保護者からの回答割合が増加している。直接生徒と関わる担任からの呼びかけが、回答数向上に大きく貢献したと思われる。「学校からの配布物」が保護者に渡っている割合が8割である。学校からの情報を生徒にゆだねるだけでなく、一斉メールの活用等も考慮する必要があると思われる。

3 評価基準について

- ・それぞれの項目の達成度を1～4の評価基準で回答を求めた。4段階評定としたのは、中間回答（どちらでもない）の層を、肯定的評価または否定的評価のいずれかに振り分けるためである。

4	3	2	1
特にそう思う (よく知っている)	そう思う (知っている)	あまり思わない (あまり知らない)	まったく思わない (まったく知らない)

- ・回答4と3の合計を肯定的評価、2と1の合計を否定的評価に分けて、アンケート結果を評価考察した。
- ※ 一斉メール登録の有無に関しては、「はい・いいえ」の二択とした。
- ※ 回答3「少し」という表現を削除し、曖昧さをなくした。
- ※ 生徒アンケート設問14「学校行事に積極的に参加していますか」に変更した。学校生活の充実度を把握することを目的とした。
- ※ 自由記述を設け、課題の「見えるか」をはかった。

4 アンケートによる評価のまとめ

4.1 アンケート結果の分析

努力目標（1）「学習意欲の育成」に関して

《データ》 ※（ ）は昨年のパーセンテージ

○生徒アンケートの各設問と肯定的評価の割合は以下の通りである。

- | | |
|--|---------------|
| 1 本校では、ものづくりをとおして、知識、技術・技能を修得できると思いますか | 97.0% (98.7%) |
| 2 授業方法は工夫されていると思いますか | 86.7% (89.3%) |
| 3 授業に積極的に取り組むようになりましたか | 87.2% (86.8%) |

○保護者アンケートの各設問と肯定的評価の割合は以下の通りである。

- | | |
|---|---------------|
| 1 本校では、ものづくりをとおして、知識、技術、・技能を修得できると思いますか | 97.7% (98.4%) |
| 2 授業の参観や、またはお子様の話から、本校の授業はわかりやすく展開されていると思われませんか | 74.1% (81.1%) |
| 3 お子様が学習している科目の内容や評価のしかたについてご存じですか | 53.4% (62.3%) |

○教員アンケートの各設問と肯定的評価の割合は以下の通りである。

- | | |
|--|---------------|
| 1 本校ではものづくりをとおした知識、技術・技能が修得できる体験型の学習の充実を図ることができていますか | 97.3% (95.9%) |
| 2 わかりやすい授業をするために、授業の工夫を行っていますか | 90.4% (97.3%) |
| 3 学ぶ意欲を引き出す評価の工夫・充実を図っていますか | 84.9% (89.0%) |

《考察》

努力目標（1）「学習意欲の育成」に関しては、昨年同様いずれも高い評価が得られている。

設問1の「ものづくりをとおして知識・技術・技能を修得できる」とした回答は、生徒・保護者で97%を超え特に高い評価を得ている。教員の評価も昨年度より上昇し97.3%とやはり高評価である。本年度は、会工祭もあり生徒・保護者・教員に「ものづくり教育」の浸透が加速したと思われる。

設問2の「授業方法の工夫について」は、昨年度と比較して、生徒2.6ポイント、保護者7.0ポイント、教員6.9ポイント減少した。また、生徒と保護者の評価は、教員よりも3~16ポイントあまり低く、教員の認識とは大きなギャップがある。教員は、常に生徒の実態に合わせた授業の工夫が求められる。また、家庭学習を習慣化させることで、わかる授業への参加につながると思われる。

設問3の「生徒の意欲を引き出す評価の工夫を図っているか」回答は、昨年より生徒は0.4ポイント微増したが教員は4.1ポイント下がった。生徒の学年別でみると1年89.7%、2年83.8%、3年88.2%と2年が低い。他の学年とは違う取り組みの工夫が必要であると思われる。継続して生徒の意欲を引き出す工夫が必要である。保護者の「科目の内容と評価方法を知っているか」については、53.4%であった。学校の評価基準の見えるかをはかることが、授業への積極的参加や学習意欲の向上につながる要因の一つであると思われる。また、家庭で学校の話題がでてくるように、学校からの情報発信も有効だと思われる。

努力目標（２）「職業観の育成」に関して
 《データ》 ※（ ）は今年のパーセンテージ

○生徒アンケートの各設問と肯定的評価の割合は以下の通りである。

- | | | |
|---|--|---------------|
| 4 | 企業見学・各種講習会・講演会・進学課外などをとおして、1年次から自分の進路を考えるようになりましたか | 83.2% (83.9%) |
| 5 | インターンシップなどは、将来の職業を考える上で有益だと思いますか。 | 91.3% (92.0%) |
| 6 | 講習会や課外指導に参加するなど、資格取得や検定合格のための努力をしていますか | 77.3% (78.5%) |

○保護者アンケートの各設問と肯定的評価の割合は以下の通りである。

- | | | |
|---|---|---------------|
| 4 | 企業見学・各種講習会・講演会・進学課外などをとおして、1年次から進路意識を啓発するための指導が行われていると思いますか | 91.6% (94.5%) |
| 5 | インターンシップなどは、お子さまが進路実現を図る上で有益だと思いますか | 95.1% (96.5%) |
| 6 | お子さまは、資格取得や検定合格のために、講習会や課外指導に参加するなどの努力をしていますか | 71.0% (81.1%) |

○教員アンケートの各設問と肯定的評価の割合は以下の通りである。

- | | | |
|---|--|---------------|
| 4 | 企業見学会・各種講習会・講演会・進学課外などをとおして、進路意識の早期啓発を促すことができていると思いますか | 97.3% (95.9%) |
| 5 | インターンシップをとおして、生徒のキャリア教育の充実を図ることができていると思いますか | 92.0% (95.9%) |
| 6 | 各種資格検定合格のための支援体制は十分だと思いますか | 79.7% (78.1%) |

《考察》

努力目標（２）「職業観の育成」に関しても、概ね高い評価であった。

設問4の生徒の「自分の進路を考える様になったか」については、肯定的評価が1年は、88.1%、2年80.0%、3年81.3%であった。1年は昨年度より4.6ポイント高かった。保護者は、1年87.5%、2年94.2%、3年93.7%であった。2年生は、会工祭・修学旅行等の後で、3年生は、進路決定後にアンケート実施したため意識が低下したと思われる。保護者・教員はともに高く、生徒の進路決定に役立っている。今後も様々な機会をとおして進路意識の啓発や指導が大切である。

設問5の「インターンシップなど」は、生徒・保護者・教員とも昨年度と比較して0.7～3.9ポイント低い。しかし、高い評価で、インターンシップの効果が共有されている。この結果に満足することなく、新たな目標を設定して、発展的な取り組みを考えることも必要であると思われる。

設問6の「資格検定への努力や支援体制について」は、生徒・保護者・教員とも他の設問より評価が低く、特に2年の保護者の肯定的回答は、昨年度と比較して10.1ポイント低くなった。現在実施している、放課後に行われている補習は、部活動の両立が難しいという問題も発生している。アンケート結果を重く受け止めて、生徒の意欲向上を導き出し、実効性のある指導体制を学校全体で考える必要があると思われる。

努力目標(3)「社会性の育成」に関して
 《データ》 ※ () は去年のパーセンテージ

○生徒アンケートの各設問と肯定的評価の割合は以下の通りである。

7 自律した生活を送り、校則や社会のマナー・ルールを守っていますか	93.3% (94.5%)
8 環境美化や省エネを心がけていますか	82.5% (81.1%)
9 部活動に積極的に参加していますか	77.5% (80.9%)

○保護者アンケートの各設問と肯定的評価の割合は以下の通りである。

7 お子さまは、基本的な生活習慣が確立され、校則や社会のマナー・ルールを守っていると思いますか	89.4% (93.7%)
8 お子さまは環境美化や省エネに心がけていますか	64.6% (74.1%)
9 お子さまは部活動に積極的に参加していますか	75.6% (83.3%)

○教員アンケートの各設問と肯定的評価の割合は以下の通りである。

7 HR、服装頭髪指導、登校指導、部活動をとおして、社会性・規範意識や基本的な生活習慣を身につけさせる指導に力を入れていますか	80.0% (91.8%)
8 校内美化、省エネの推進、実習での服装指導などとおして、環境と安全に対する意識を高める指導に力を入れていますか	74.3% (80.8%)
9 生徒が部活動を通して社会性を身につけ、自己実現を図ることができるように配慮していますか	81.3% (89.0%)

《考察》

努力目標(3)「社会性の育成」に関しては、例年生徒・保護者と教員とで肯定的回答に大きな開きがある。今年も同様な傾向となった。

設問7の「社会のマナーやルール」への肯定的評価は、昨年度と比較して、生徒1.2%、保護者4.3%、教員11.8%と減少した。特に、教員の減少が顕著であった。教員と生徒・保護者との意識のギャップは、生徒とは13.8%、保護者とは9.9%であった。この差は、服装・頭髪などの校則に対する認識の差(基準の差)差が大きいと思われる。従来^の指導を検証し、この差を解決する方策を導き出して、指導することも必要であると思われる。

設問8の「環境美化・安全・省エネ意識」は比較的评价が低くなっている。肯定的回答を昨年と比較すると、生徒1.4%微増に対して、保護者9.5%、教員6.5%低くなった。生徒と保護者の環境美化や省エネに対する意識のズレと考えられる。教員も、環境と安全に対する教育が十分でないと考えている結果となっている。環境美化・省エネの意識と実践を習得させるために、今後も継続した指導が必要と思われる。

設問9の「部活動の積極的参加」については、肯定的回答が昨年度より低かった。

具体的には、生徒3.4%、保護者7.7%、教員8.2%低くなった。しかし、生徒の50.9%が『特にそう思う』と答えており、半数近い生徒が部活動に積極的に取り組んでいる様子が見えてくる。一方、22.5%の生徒が否定的な回答だった。資格取得の勉強、遠距離通学などで部活動に積極的に参加出来ない生徒も含まれると推測され。部活動への期待の高さは、企業からも伺い知ることができる。本校の努力目標である「部活動をとおし社会性を身につけ自己実現を図る」ためにも、部活動の活性化をさらに進める必要があると思われる。

努力目標（４）「地域との連携推進」に関して
 《データ》 ※（ ）は今年のパーセンテージ

○生徒アンケートの各設問と肯定的評価の割合は以下の通りである。

- | | | |
|----|---|---------------|
| 10 | 学校からの配布物をきちんと家族に渡していますか | 80.1% (79.8%) |
| 11 | 各科や学校行事で行っている外部講義や研修は、役に立っていますか | 94.3% (91.4%) |
| 12 | 本校は、授業参観や研究発表などによって、外部に適切に発信されていると思いますか | 87.0% (82.8%) |

○保護者アンケートの各設問と肯定的評価の割合は以下の通りである。

- | | | |
|----|---|---------------|
| 10 | 学校からの配布物、ホームページ、一斉メール、PTAの各種会合などによって、知りたい情報を得ることができていますか | 80.5% (82.9%) |
| 11 | 本校が地元企業との連携をいかした取り組みなどを行っていると思いますか | 83.6% (88.1%) |
| 12 | 本校の教育活動・学校運営の状況は、授業参観や研究発表、学校評価などによって、外部に適切に発信されていると思いますか | 79.5% (81.6%) |

○教員アンケートの各設問と肯定的評価の割合は以下の通りである。

- | | | |
|----|---|---------------|
| 10 | 学校からの情報はHPや配布物、各種会合などをとおして、有効に発信されていると思いますか | 72.2% (75.3%) |
| 11 | 「地域産業連携事業」など外部事業に関わる校内の協力体制は整っていると思いますか | 95.9% (93.2%) |
| 12 | 本校の教育活動・学校運営の状況は、授業参観や研究発表、学校評価などによって、地域・保護者に適切に発信されていると思いますか | 75.3% (71.2%) |

《考察》

努力目標４「地域との連携推進」については、昨年と比較すると肯定的回答は、生徒は1.3%～4.2%微増。保護者は2.1%～4.5%微減。教員は、[設問10]3.1%減少、[設問11]2.7%、[設問12]3.9%ともに増加した。

設問10の、生徒の「学校の配布物や情報発信は・・・」は、生徒・保護者ともに8割の肯定的回答が得られた。しかし、教員は昨年に引き続き7割弱である。生徒・保護者が知りたい情報と教員が知ってほしい情報を適切に把握し、確実に保護者に届く手段も再考する必要があると思われる。現在行われている、生徒をとおしての配布物がしっかりと保護者に届くように、HPや一斉メールなどの活用法も再考する必要があると思われる。

設問11の「産学官連携の推進」の状況を問う設問は、生徒、教員は肯定的回答が昨年を上回り9割強の回答であった。しかし、保護者は、4.5%減少した。様々な取り組みが実施され、生徒・教員はその成果を共有できている。保護者への適切な発信方法を設問10同様に改善する必要があると思われる。

設問12の「学校運営や教育活動の公開」についての状況を問う設問では、肯定的評価は生徒87.0%、保護者79.5%、教員75.3%。保護者のみ昨年度よりも2.1%微減した。従来から行われている、PTA方部会、学校開放、校内課題研究発表会などの取り組みを継続しながら、多くの保護者が出席できる環境作りの検討が必要である。

(5) 「学校全般について」に関して
《データ》 ※ () は去年のパーセンテージ

○生徒アンケートの各設問と肯定的評価の割合は以下の通りである。

13 本校では教育相談部やスクールカウンセラーが生徒や保護者の相談活動を行っていることを知っていますか	82.6% (62.6%)
14 <u>学校行事に積極的に参加していますか</u>	92.3%
15 一斉メールに登録していますか	63.1% (53.0%)
16 本校に入学して良かったと思いますか	88.7% (91.3%)

○保護者アンケートの各設問と肯定的評価の割合は以下の通りである。

13 本校の教育相談部やスクールカウンセラーを活用したいと思いますか	48.1% (54.2%)
14 保護者としてPTA活動などの学校行事に参加されていますか	33.6% (36.3%)
15 一斉メールに登録していますか	85.4% (79.9%)
16 お子様を本校に入学させて良かったと思いますか	97.7% (97.5%)

○教員アンケートの各設問と肯定的評価の割合は以下の通りである。

13 全教職員の共通理解のもとで生徒指導には取り組んでいると思いますか	56.9% (63.0%)
14 日頃、生徒と向き合う時間は十分確保できていると思いますか	67.1% (63.0%)
15 校務分掌はバランスよく仕事が割り振られていると思いますか	45.2% (50.7%)

《考察》

「学校全般について」のアンケートは、生徒・保護者と教員との設問の内容に関連性はない。生徒に「学校行事に積極的に参加しているか」設問を設けた。設問ごとに分析してみると、

「教育相談、スクールカウンセラー」は、生徒のおかれた状況が大きく影響するが、昨年と比較して生徒の肯定的回答が20.0%増加した。保護者への「活用したいか」では、4.1%減少した。教育相談部は精神的な安らぎや相談の場として、今後もさらに重要性であると思われる。

生徒の学校行事への参加意欲を問う設問では、肯定的回答が92.3%と高かった。様々な行事をとおして、クラスや科の団結力が高まればと思う。今後も、積極的に参加できる支援が大切だと思われる。「一斉メール」は、昨年度より増加した。しかし、「PTA活動」は、33.6%と昨年度よりも2.7%減少した。保護者の働く環境などから参加できないことも考えられが、学校側も保護者の諸事情を考慮した取り組みを考える必要があると思われる。「入学して良かった」では、保護者が全学年をとおして非常に高い評価であった。本校のモノづくり教育活動に大いに期待していると受け止めたい。生徒は、1年91.5%、2年85.5%、3年89.1%だった。1年は「期待」2年は「中だるみ」3年は「進路実現」などによると思われる。

教員対象の設問では、肯定的回答が全般的に低い。「生徒指導」に関しては、肯定的回答が6.1%減少。「生徒と向き合う時間の確保」は4.1%増加。2年連続で改善されていると回答している。

「校務分掌のバランス」については45.2%大きく減少した。この結果を踏まえて、問題を洗い出しながら適切な職場環境づくりに取り組む必要があると思われる。

Ⅲ 広報の概要

アンケートの結果については、全教職員に配布。来年度の取り組みへの参考資料にするとともに、HPに掲載。また、保護者には、文書や一斉メールを利用して、このことを周知する。

Ⅳ 次年度へ向けて

○ 努力目標1[学習意欲の育成]

情報発信ツールである、HPや一斉メールの活用をもっとすべきである。その為にも、保護者の一斉メール登録を100%にする。入学時に全員登録するようにすることを提案する。

学習内容や評価法など、学級懇談やPTA総会等を活用して行う。年度初めに配布しているシラバスを活用しながら、繰り返し説明を実施することを提案する。

○ 努力目標2[職業観の育成]

検定試験合格に向けた取り組みが課題である。

検定試験合格に向けた補講を広報して、生徒や保護者に周知する。検定受検と合格に向けた意識改革を、生徒の自主性に一任することに限界がある。さらには、部活動との兼ね合いもある。資格取得を積極的に推奨しているので、補講に参加できる環境作りを検討することを提案する。

○ 努力目標3[社会性の育成]

教職員への設問「HR、服装頭髪指導、登校指導、部活動をとおして、社会性・規範意識や基本的な生活習慣を身に付けさせる指導に力を入れていますか」は、大幅に減少した。この結果は、大きな課題である。学校で行っている全ての活動において、生徒に社会性や規範意識を身に付けさせる取り組みを行うためにも、認識の共有化と統一した指導が急務であり、関係分掌で早急に検討することを提案する。

環境や省エネへの取り組みは、生徒が自ら考え活動できる環境を作る。さらに、この取り組みは、成果が見えにくいので継続して取り組むことが大切である。関係分掌で検討していただきたい。

○ 努力目標4[地域の連携推進]

情報の発信が大切である。生徒をとおしての発信には限界がある。改善として、一斉メールの活用がある。例えば、学年毎のメール配信、本校HPと連動した発信等。いつでも「見ることができる環境」「振り返ることができる環境」を整えるためにも、手始めに一斉メール登録100%をめざす。各学年や各分掌で担当者を決めて発信することを検討することを提案する。

○ [学校全般について]

生徒指導の取り組みと校務の片寄りの課題は、いっこうに改善されていない。急務の課題と捉え具体的な対策を検討することを提案する。例えば、担任の業務軽減として、HR会計一切を副担任が行うことを提案したい。この他にも、課題の改善策を積極的に提案してもらい検討実践する必要がある。

○ [自由記述]

次年度に向けて、記述内容から現状を把握して課題を洗い出す必要がある。洗い出された課題を解決するために、対策を立案。立案された対策を実践。その後、課題の解決につながったか検証する必要がある。また、取り組みを発信することを提案する。